

「けやき俳句の会」会報(第二百十二回)

令和三年三月三日

第二百十二句会記録

★日時 令和三年五月五日

★場所 紙上句会

★参加者十九名 (総数五十七句)

★真樹先生投句 (○内の数字は得票数)

② 朝まだき雉が見回る婆の畑

② ひとむきに噴井の透ける火山灰(よな) 大地

① 梨摘花終えたなごころ暮れなずむ

★真樹先生選句 (○は特選)

◎② 青空を映して早苗開きかな

◎② 竹皮を脱ぐや吾の背を追い抜いて

◎③ 蛙に出会う我と相撲を取るつもり

④ 田を借りて代掻きをするとも白髪

③ 鳥交る里山巡り感謝して

④ 露味噌の滋味語り合う友の笑み

④ 初めてのセロリ糠漬け二人分

③ 春日傘回し白雲足早に

② 遠嶺の白き頂背に耕す

② 炊いて煮て揚げて筍づくしかな

② 遠雪嶺此処桜桃の花盛り

② ひとしきり雉子啼く朝の目覚めかな

① 五月鯉新型コロナ吹き飛ばせ

① 花冷えの心身折れるまた自粛

① 老鷲の長鳴き今日を霽の日に

会員五選句

⑥ 花缺ぱしと響かせ今朝の薔薇

⑤ 生きる場は石の狭間と葦草

④ 里幾つ鳴き声深し青葉づく

③ 初鯉静けき町の浜言葉

③ あご髭を撫でて唄ふや菖蒲風呂

③ からみあうイヤホンコード目借時

③ たんぼの絮飛ばす風運ぶ風

② かたつむり木洩日の陰ねむりおり

② 空さわぐ戦時の囲壁花は葉に

② 近江墓参方言聞くや春の湖

② 磯遊び捲る袖口貝ボタン

② 爺々婆々の嬉し笑顔の鯉のぼり

② 悔恨の向かうは白し暮の春

① 去るものを追わずときめて四月尽

① 木の上の住処作りし子供の日

① ヴィヴァルディを聴かせ惜しむや花木

① 鳥帰る故郷へ一刷毛あかね雲

① 春なのに寒の戻りか肌寒し

① 水潔し梅花藻の美際立てて

① みちのくの農を告ぐるや桜花

① 君を待つ雨の公園樟若葉

① 寺町の空き地目も彩虞美人草

① いさましや朝風はらみ五月鯉

① 深山霧島火山灰降る街を鎮めけり

① 夏立ちぬ房総台地をモノレール

① 若者の青き顔して四月尽

① オンオフの日がな一日春深む

① 初桜吉野の山に香る雨

【次回開催】

令和三年六月二日

三句提出

夢城

冬水

渡辺

藍愛

東洋

紀泉

紀泉

青嵐

真弓

而今

隼人

香魚

香魚

清明

清明

誠

蕉哉

冬水

渡辺

樹音

廣川

隼人

一華

冬水

夢城

廣川

廣川

誠

隼人

一華

紀泉

一華